

2025年度  
神戸山手グローバル高等学校 入学試験  
(1次)

# 国 語

- ・試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- ・試験時間は50分です。
- ・解答用紙は、この問題冊子の中央にはさまれています。
- ・試験のはじめに、受験番号を解答用紙に記入しなさい。  
(名前を書いてはいけません。)
- ・解答用紙の  の採点欄には、何も書いてはいけません。
- ・解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
- ・字数制限のある問いでは、句読点や記号も一字と数えます。
- ・質問などがあれば、静かに手をあげて知らせなさい。

受 験 番 号

|         |  |  |  |
|---------|--|--|--|
| 受 験 番 号 |  |  |  |
|         |  |  |  |

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今から二〇〇〇年前、ギリシヤに素晴らしい人たちが現れた。彼らは哲学を論じながらも、同時に体を鍛えること、**I** スポーツをすることを忘れなかった。「健全な精神は健全なる身体に宿る」という考えを後世の人にのこした。このためにヨーロッパでは、ギリシヤを理想として、それに近づこうと努力してきた。

**II**、ご本尊のギリシヤの人たちは、今やその精神を忘れ、お金を儲けること、知識を増やすことばかりに心を奪われている。**III** 二〇〇〇年前よりも知恵は増えたかもしれない。政治的権力は増えたかもしれない。だが、残念ながら、人間としては二〇〇〇年前のギリシヤ人に遠く及ばない。**①** そのツケが経済の破綻はたんという事態を招いている。今ギリシヤは世界じゅうから陰ながら **A** 軽蔑けいべつされる国になってしまつて、祖先の名を辱はづかしめるのは残念なことだ。ギリシヤ人は再び立ち上がり、立派な精神と生活を融合させた国にしてほしいものである。

日本も同じで、偉そうなことは言えない。現に経済は、元気がない。活力に欠けている。それはいまの若者の責任ではないが、三〇年後、五〇年後、この国が世界から尊敬される、優れた文化を持つ、優れた人間のある社会になつていなければ、それは若い世代の責任である。

ここ五〇年の間、今の社会に生きてきた人たちの努力は残念ながら充分ではなかった。お金は儲もちけた。しかし、経済大国だなどと言われている気になつていううちに、「人間は何のために生きるのか」という大切なことを忘れてしまった。ヨーロッパから、日本人はエコノミック・アニマルだなどと言われた。**②** 恥はづかしかしいことだ。

学歴があれば、就職できる。就職をすれば、ある程度の月給をもらえる。そうやって、ちようどエスカレーターに乗っているようなつもりで人生をおくる人たちが多くなつた。国全体が地盤沈下を起こしている。

この先三〇年たつた時に、どうかよその国から軽蔑されるような国にならないよう、若い人たちは人間として正しく美しく生きていってほしい。

本題に戻る。

人のつくつた知識がありがたがって丸覚えするというのは、子どもの時はしかたないことだが、いつまでも自分自身の力で考えられなければ、人間としてこの世に生まれてきた意味は小さい。

では、人間が自分の頭で考えるようになるためには何が必要か。

まず体を動かすということ。そしてもうひとつは、不幸とか、貧困とか、失敗とか、そういう辛い境遇から逃げ **a** ないことだ。

困難な状況の中にならないうと、頭は必死になつて考えることをしない。美味しいものを食べ、快適な生活をして、いい学校に通つて、いい成績を上げているうちは、ものを考えるチャンスが少ない。**I** 例えば、家が貧しくて、どうもこのままでは大学に行け **b** ないかもしれないという状況に直面したとする。そこで本当に力がある人は、どうすればいいかということの本気で考える。金持ちのお坊ちゃんやヘラヘラしている間に、ものすごい苦勞をして人間力もつける。**II**

苦勞や失敗が少ないというのは幸せなことではある。**III** 不幸や災難がやつてきた時にこそ、人間は自分の中の眠っている力が目を覚まし、大きなことをするようになる。**III**

東日本震災の時に大きな **B** ギセイぎせいが出たことは甚はなはだいたましいことであつた。しかし、幸いにして生き残つた人、ことに若い人たちには、最大の試練を受けることによつて、素晴らしいチャンスを与えられたことになる。恵まれた境遇にいる人たちと比べ、東北の被災地にいる若い人たちは、たいへんな苦しい思いをしながら勉強をしている。環境が充分で **c** ない。しかし、それをのり越えれば素晴らしい人間に育っていくだろう。すくなくとも、**③** 素晴らしい人間になれる道がたくさんある。それによつて、もしそういう災害がなければ成し遂げることのできなかつたような大きな仕事、世界のためになるような仕事をするチャンスが出てくる。

一般の若い人たちはそうした悪い境遇におかれてい **d** ないが、それによる **C** 賢明けんめいではない。苦しい目に遭つてこそ、それまで眠っている、赤ん坊のときに持っていたような活力、能力が蘇よみがえつてくる。

戦国の武将、山中鹿之助<sup>しかのすけ</sup>は育ちが良く恵まれた境遇にいたが、人間として大成するには不幸でなければダメだということに気づいて、「我われに七難八苦を与えたまえ」と神に祈った。大きなことを成し遂げるような人間になるため、わざわざ、苦難を与えてくださいと神に祈ったのだ。苦しいこと、つらいことが人間を育てるということが今は忘れられている。

トーマス・カーライルというイギリスの思想家がこんな面白いことを言っている。「経験は最良の教師である。ただし授業料が高い！」——ここで言う経験とは当然、辛い経験、痛い経験、苦しい経験のこと。苦しい経験こそが、われわれをたくましく育ててくれる最良の先生なのである。

若い人の人生はこれから始まる。この先、どこで待ち受けているかわからない荒々しい困難に負けないで、むしろ困難をチャンスととらえることで、新しい人間力を身につけ、素晴らしい人生を切り開いてほしい。④ そう考えることのできる人を、未来は待っている。

(外山滋比古<sup>とやましげひこ</sup>「知ること、考えること」より一部改変)

問一 〓線A～Cについて、漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。

問二 

|   |
|---|
| I |
|---|

|     |
|-----|
| III |
|-----|

 にふさわしい語を、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

あ たしかに    い ところが    う もし    え すなわち

問三 〓線①「そのツケ」とはどのようなツケですか。それを説明した次の文の空欄に入る言葉を、本文からそれぞれ二十字以内で抜き出しなさい。

(ア) という考えを忘れ、(イ) に心を奪われてきたツケ。

問四 〓線②「恥ずかしいことだ」とありますが、どういうことが恥ずかしいとっているのですか。簡単に説明しなさい。

問五 〓線 a～d の「ない」の中で、文法的な働きの違うものがあります。記号で答えなさい。

問六 本文には次の一文が抜けています。 

|   |
|---|
| イ |
|---|

|   |
|---|
| 三 |
|---|

 のどこに入りますか。記号で答えなさい。

しかし、**幸せは、人間を育てるのにプラスにはたらくことはすくない。**

問七 〓線③「素晴らしい人間になれる道がたくさんある」とありますが、どういうことをいっているのですか。最もふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ 二〇〇〇年前のギリシャ人のように、哲学的にものごとを考え、人生を切り開いていくことができる。

い 快適な生活から抜け出し、現代の生き方を見直すことで、かえって人生を豊かなものにしていくことができる。

う 最大の試練をのり越えていく中で人間的に成長し、思わぬ大きな仕事や世界のためになる仕事をするチャンスができる。

え 人間は赤ん坊のような純粹な心を思い出せば、眠っていた能力が蘇り、本来の自分の能力を発揮することができる。

問八——線④「そう考えることのできる人」とありますが、どのように考えることのできる人ですか。本文より、「のできる人」につながるように、十五字以内で抜き出して答えなさい。

問九 本文の主旨として正しいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ 二〇〇〇年前のギリシャの人たちの考えを引き継ぎ、いかに素晴らしい人生を送るかを哲学的に考えることができる人こそが、最も尊敬され、人々の生き方の理想とされる。

い 現在の日本は、エコノミック・アニマルなどと言われたり、甚大な災害があつたりしているが、いつかは立派に復活できると確信できる若者が多くいる。

う 人のつくった知識を覚えることも重要だが、自分の頭で考えることが大切であり、人生を切り開くためには辛い経験を重ねることが重要であり、貧富の差は関係がない。

え 人間が自分の頭で考えるようになるためには、体を鍛えるとともに、辛い境遇から逃げないことであり、そうすることで人間力を身につけ、素晴らしい人生を送ることができる。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この日、子供たちは、みんな人参にんじんを食べてしまった。カレーライスは、給食の中では最も人気のあるメニューなのである。悠子は日記の中に、  
A ホコらかに「①今日も成功」と書いた。

校長からも、職員室からも喝采を浴び、二日続きの成功で、悠子は有頂天になった。②もはや敵はほうれん草しか残っていない。これを形も色も、ほうれん草ではない料理にするには何があるか。悠子は考えこんだ。

えんどう豆を裏漉うらこしにしてクリームスープに仕立てるのを、一学期の

末にしたことがあり、好評だったのを思い出した。あのときもミキサーを使ったのだ。そうだ、あれと同じB要領ようりやうでやればいい。

水曜日に、悠子は自分一人ではほうれん草を洗い、茹ゆで、水にさらしてから、クリームスープの用意をし、ほうれん草はミキサーにかけた。スープに混ぜて加熱し、味わってみると、上々であると思えた。

「これ、なに、悠子さん」

シスター・マグダレナが、びっくりした顔でスープ用のカップに入っただものを見て訊きいた。

「ほうれん草です」

「おお、ほうれん草。このスープ、ほうれん草。おお」

マグダレナ修道女が驚いても、悠子の自信はゆるがなかった。ほうれん草は香気の強い※蔬菜そさいではないし、繊維もそれほど強くない。ミキサーにかければ原型はなくなるし、白いクリームスープで色が薄められれば、えんどう豆と間違える子どもだっているかもしれない。③悠子は十

二時五十分という食器の戻ってくる時間が待遠まちしかった。食時中の様子を見に行こうかと、髪をCシバしばっている頭巾ずきんを取り、調理室を出ようと扉のノブに手をかけたとき、扉が荒々しく開けられ、男の教師が飛込んできた。初等科二年生の担当者である。

「君、なんだい、あのスープは」

相手の見幕けんまくに、悠子は驚いてすぐ返事が出来なかった。

「あのスープは、いったいなんだい」

「あのオ、ほうれん草をクリームスープに混ぜたんですけど」

「あれがほうれん草か、あの、まっ黒なスープが」

「そんなに黒くはないでしょう。薄緑色の筈はずですけれど」

「まっ黒だよ。僕のクラスじゃ、怖いと言って泣き出した子が二人もいるんだ。僕だって気味が悪くて口をつける気になれなかったからね。僕はこの学校に来て五年になるけど、こんなひどいスープが出たのは初めてだ。君ねえ、料理は目で食べるって言うだろう。あんなきたならしい色では料理だなんて言えないよ」

その頃には、スープの正体に疑問を持った教師や初等科を担当してい

るシスターたちが数人も、調理室の入口に立っていた。

悠子の先輩に当る一人が、口を次いだ。

「悠子さん、ほうれん草を、さらし忘れたんじゃないの」

「いいえ、一度茹でこぼして水でさらしているんです」

「でも、あくが抜けきれていなかったみたいよ。だって、まっ黒なんですよ」

「すみません」

悠子には、④ 思いがけない出来事だったが、ともかく頭を下げるしかなかった。教師たちの背後にシスター・マグダレナが心配そうな顔をしているのを見ると、涙がこぼれ落ちた。

「ともかく、ほうれん草と分っただけでも生徒に説明が出来ますよ」

「黒豆のスープですかって訊いた子がいるんですよ、私のクラスでは」

「いずれにせよ、無理しても呑めとは言い難いわねえ」

「ちよつとね」

「僕の組じゃ、泣き出した子がいるんだよ」

「あら、私のクラスもよ」

日頃、給食を残すのはいけないと口を酸くして厳しく言いきかせている教師のクラスほど、子供たちが受けたショックは大きいようだった。

十二時五十分。食器が戻り始めると、スープ用のカップには、どす黒い液体が入れたときそのままの量で戻ってきた。調理室で働いている数人のシスターたちが、黙ってそれを残飯入れに捨てている。悠子は I と涙をこぼしながら、一緒に食器を洗っていた。ほとんどのカップが、口をつけた痕もない。悠子はその一つを、II 眺めてみた。なるほど、黒い。調理室でクリームスープと混ぜたときには、こんなに黝んでいなかったのに。時間がたつにつれて、あくがクリームに勝ってしまったのだらう。悠子は一杯を息に呑んでみて、味まで執こくなっているの気がつく、また涙がこぼれた。匂いまで、おかしい。

調理室で働いているシスターたちは、⑤ 誰もものを言わなかった。もともと沈黙は、この修道会の古い掟の一つであったのだが、それにしても今日の a 無口なシスターたちが、心で悠子を憐れんでいること

は b 明らかだった。悠子は調理室を III 出た。二階の音楽教室が、ピアノも鳴っていないし、唄声もきこえない。一人で泣くには格好の場所だった。悠子は、誰もいない音楽教室にかけこむと、声をあげて泣いた。

しばらくすると、c ひそやかなピアノ・ソナタが奏でられ始めた。振り返るとシスター・マグダレナが弾いていた。古いスペインに伝わるメロディらしかった。シスターの修道服は数年前に変って、色はグレー、スカート丈は、七分になり、髪も生え際が少し見えるようにグレーの頭巾をかぶっている。悠子が小学生の頃は、修道尼たちは中世以来の d 重々しい制服を着ていて、その頃は、髪の毛どころか、首筋も見せないように純白の布で掩いかくしていた。あの頃のシスター・マグダレナは、まだ若さが肌に残っていたし、髪もきつと今のようには白毛ではなかったらう。

美しい、ピアノ曲だった。弾き終ると、シスター・マグダレナは、悠子の視線を意識していたらしく、まっ直ぐに顔をあげて、悠子を見て頬笑んだ。

「シスター、すみませんでした。あんなスープを作ってしまった」

「大丈夫のこと。私、とてもおいしいでした。栄養のスープね。私、みんな食べてしまいました。とてもおいしいでした」

悠子は、また涙が止らなくなった。豆腐入りの掻き卵も、人参入りのカレーライスも、悠子は自分の家でテストをしてみ、その上で給食に実行したのに、前後二回の成功に有頂天になって、ほうれん草のスープは、思いつきをいきなり大量に作って子供たちのテーブルに送り出してしまったのだ。

「シスター、私が悪かったんです。⑥ 傲慢だったんです。子供たちに本当にすまないことをしてしまいました」

悠子は、泣きながら言ったが、声が言葉にはならなかった。

「大丈夫のこと。神さま御存知ですと申します。一番、一番、大切のこと。神さまお分りですと申します。⑦ 悠子さんの心、間違っていないね。ほうれん草、栄養あります。子供に食べさせる、大切のこと。これ、悠子さんの心。神さま、きつとお分りですと申します」

シスター・マグダレナは両手を伸ばして、泣いている悠子の肩に手を置き、力強く言った。  
(有吉佐和子『青い壺』より一部改変)

※蔬菜：副食物として栽培する野菜。あおもの。

問一 ―― 線AとCについて、漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。

問二 ―― 線①「今日も成功」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ 子供たちが、カレーライスを見事に完食したこと。

い 校長や先生方からも、メニューをほめられたこと。

う カレーライスを、人気メニューに仕立てたこと。

え 子供たちに、人参を残させなかったこと。

問三 ―― 線②「もはや敵はほうれん草しか残っていない」とありますが、悠子にとってほうれん草が「敵」とはどういうことですか。説明しなさい。

問四 ―― 線③「悠子は十二時五十分という食器の戻ってくる時間が待遠しかった」とありますが、なぜ待ち遠しかったのですか。説明しなさい。

問五 ―― 線④「思いがけない出来事」とありますが、ことわざで表現すると、次のどれに当てはまりますか。ふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ 雨降って地固まる

う 青天の霹靂

い 目から鱗が落ちる

え 鬼に金棒

問六 

|   |
|---|
| I |
|---|

と 

|     |
|-----|
| III |
|-----|

 にふさわしい語を、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

あ そつと    い ぼろぼろ    う しみじみ    え うつとり

問七 ―― 線⑤「誰もものを言わなかった」とありますが、なぜシスターたちはものを言わなかったと悠子は思ったのか、その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ 子供たちの反応を当然のことだと理解する気持ちがあったから。

い 常に修道会の古い掟おきてを守らないといけない気持ちがあったから。

う 食べ物を粗末にさせてしまったことを責める気持ちがあったから。

え 考えたメニューが失敗したことに同情する気持ちがあったから。

問八 

|         |
|---------|
| 線 a と d |
|---------|

の中で、他と品詞が異なる語が一つあります。記号で答えなさい。

問九 ―― 線⑥「傲慢だったんです」とありますが、どのようなことを指しているのですか。それを説明した次の文の(Ⅰ)と(Ⅲ)に当てはまる言葉を、本文からそれぞれ( )内に指定された字数で抜き出し、完成させなさい。

前回は(Ⅰ 八字)をしたのに、今回は(Ⅱ 六字)になってしまい、(Ⅲ 九字)給食のメニューとして子供たちに出してしま

問十 ―― 線⑦「悠子さんの心」とありますが、それはどのような心であるとシスター・マグダレナは言っていますか、答えなさい。